

一般社団法人あいらんど 支援プログラム

①健康・生活

ねらい		
・健康状態の維持、改善 ・生活リズムや生活習慣の形成 ・基本的生活スキルの獲得		
支援内容		
<p>1. 健康状態の把握：健康な心と体を育て、健康で安全な生活を送れるよう支援する。また、子どもの心身状態を細かく確認し、普段とは異なる状態を見つけた場合は、必要な対応を行う。その際、意思表示が困難な子どもの障がいの特性や発達の過程・特性などに配慮し、小さな心身の異変に気づけるように観察を行う。</p> <p>2. 健康の増進：睡眠、食事、排泄の基本的な生活リズムを身に付けられるよう支援する。また、楽しく食事ができるよう食育に努めるとともに、口腔内機能や感覚などに配慮しながら、咀嚼・嚥下の接触機能、姿勢保持、手指の運動機能の状態に応じた自助具などの選定を行う。病気の予防や安全への配慮を行う。</p> <p>3. リハビリテーションの実施：日常生活や社会生活を営めるよう、それぞれの子どもがもつ機能をさらに発達させながら身体的、精神的、社会的支援を行う。</p> <p>4. 基本的生活スキルの獲得：子どもが食事、排泄、睡眠、衣類の着脱、身の回りを清潔にすることなどの生活に必要な基本的なスキルを獲得できるよう、適切な時期に適切な支援を行う。</p> <p>5. 構造化などにより生活習慣を整える：生活の中で、さまざまな遊びを通じた学びが促進されるよう環境を整える。また、障がいの特性に配慮し、本人がわかりやすいように時間や空間を構造化する。</p>		

②運動・感覚

ねらい		
・姿勢と運動、動作の向上 ・姿勢と運動、動作の補助的手段の活用 ・保有する感覚の総合的な活用		
支援内容		
<p>1. 種瀬と運動・動作の基本的技能の向上：日常生活に必要な姿勢保持、上肢・下肢の動作改善および習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。</p> <p>2. 姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用：姿勢保持や運動・動作が難しい場合、姿勢保持装置などの補助用具を活用し、これらの動作ができるように支援する。</p> <p>3. 身体の移動能力の向上：自力での身体移動や歩行、歩行器や車いすによる移動など、日常生活に必要な移動能力の向上のための支援を行う。</p> <p>4. 保有する感覚の活用：視覚、聴覚、触覚などの感覚を十分に活用できるよう、遊びを通して支援する。</p> <p>5. 感覚の補助および代行手段の活用：保有する感覚器官を用いながら眼鏡や補聴器などの補助機器で感覚の補助を行えるよう、代行手段による支援を行う。</p> <p>6. 感覚の特性（感覚の過敏や鈍麻）への対応：感覚や認知への特性（感覚の過敏や鈍麻）を把握し、感覚の偏りに対する環境調整などの支援を行う。</p>		

③認知・行動

ねらい
・ 認知の発達と行動の習得 ・ 数や空間、時間などの概念形成の習得 ・ 対象や外部環境の適切な認識と行動の習得
支援内容
1. 感覚や認知の活用：必要な情報を、視覚や聴覚から得られるように支援を行う。 2. 知覚から行動への認知過程の発達：情報の収集から行動までの認知過程の発達を支援する。 3. 認知や行動の手掛かりとなる概念の形成：物体の形や機能、空間や時間を把握・認識し、行動の手掛かりとなるように支援する。 4. 大小、色、数量などの習得：物の大きさや色彩、数の数え方などを認識できるよう支援する。 5. 認知の偏りへの対応：1人ひとりの特性や偏りに配慮した上で、的確な情報処理ができるよう支援する。食の嗜好に偏りがある場合や強いこだわりに対する支援も行う。 6. 行動障がいへの予防と対応：個々の特性や認知の偏りで生じる行動障がいを予防し、その対応方法を支援する。

④言語・コミュニケーション

ねらい
・ 言語の形成と活用 ・ 言語の受容と表出 ・ コミュニケーションの基礎的能力の向上 ・ コミュニケーション手段の選択と活用
支援内容
1. 言語の形成と活用：具体的な物や体験と言葉の意味を結びつけ、言語の習得や自ら言葉にできるよう支援を行う。 2. 受容言語と表出言語の支援：会話や文字・記号などにより、相手の言葉を理解する力と自分の言いたいことを相手に伝える力の向上を支援する。 3. 人との相互作用によるコミュニケーション能力の獲得：人と人との関りの中で、他者の気持ちを理解する能力やコミュニケーション能力の向上のための支援を行う。 4. 指差し、身振り、サインなどの活用：指差しや身振り、サインを用いて環境の理解と自分の意思を伝えられるよう支援する。 5. 読み書き能力の向上のための支援：障がいの特性に応じた、読み書き能力の向上のための支援を行う。 6. コミュニケーション機器の活用：絵カードや各種の文字・記号、機器（パソコン・タブレットなどのICT機器を含む）コミュニケーション手段を適切に選択・活用し、環境の理解と意思疎通が円滑にできるよう支援する。 7. 手話、点字、音声、文字などのコミュニケーション手段の活用：手話、点字、音声、文字、触覚、塀平易な表現による多様なコミュニケーション手段を活用し、環境の理解と自分の意思を伝えられるように支援する。

⑤人間性・社会性

ねらい		
・他者との関り（人間関係）の形成　・事故の理解と行動の調整　・仲間づくりと集団への参加		
支援内容		
<ol style="list-style-type: none">1. アタッチメント（愛着行動）の形成：身近な人と親密な関係を築き、その信頼関係を基盤としながら周囲の人と安定した関係性を築けるよう支援を行う。2. 模倣行動の支援：遊びを通して他者の動きを真似ることで、他者や社会との関りの芽生えを支援する。3. 感覚運動遊びから象徴遊びへの支援：感覚機能や運動機能を向上させる遊びから、見立て遊びなどの象徴遊びを通して社会性の発達を支援する。4. 1人遊びから共同遊びへの支援：周囲の子どもに関心のない子どもに対し、並行遊びや大人が間に入り行う連合的な遊び、役割を分担しルールを守って遊ぶ共同遊びを通じて少しずつ社会性を身につけられるよう支援する。5. 自己の理解とコントロールのための支援：大人を介して自分の行動の特徴を理解するとともに、気持ちや情動を調整できるように支援する。6. 集団への参加の支援：集団へ参加する手段やルールについて学び、遊びなどの集団活動に参加できるよう支援する。		